

「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」 あさくら元気塾報告書

「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾 5回連続講座



実践! 命を守る防災力講座

平成 30 年度福岡県「女性による元気な地域づくり応援講座事業」



あさくら元気塾実行委員会

主催：「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会 朝倉市 筑前町 東峰村
(特定非営利活動法人住みよいあさくらをめざす風おこしの会)

共催：福岡県男女共同参画センター「あすばる」

後援：公益社団法人土木学会西部支部

第1回 豪雨から1年～朝倉の実態を知ろう～

【実施日】平成30年7月11日（水）

【会場】朝倉地域生涯学習センター 会議室1

【概要】朝倉市・東峰村の「復興計画策定委員会」委員長を務めた経験等から、あさくら地域の災害のリスクについてお話しいたします。



第2回 被災体験から学ぶ今備えるべき〇〇！

【実施日】平成30年8月19日（日）

【会場】朝倉地域生涯学習センター 会議室1

【概要】実際に被災された体験を聞いて個人でできること、地域や仲間とできることを考えます。



第3回 多様な視点から見た防災

【実施日】平成30年9月2日（日）

【会場】朝倉地域生涯学習センター 会議室1

【概要】年齢や性別、障がい者などの多様な視点から見た防災・減災についてお話しいたします。

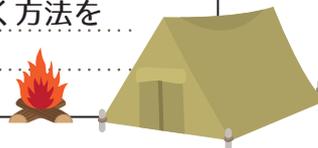


第4回 3日間生き抜くためのサバイバル技術

【実施日】平成30年11月11日（日）

【会場】旧松末小学校

【概要】災害後の3日間は救援隊や救援物資が届かないこともあります。アウトドア体験を通して3日間生き抜く方法を考えます。



第5回 地域防災の今！

【実施日】平成30年12月2日（日）

【会場】朝倉地域生涯学習センター 会議室1

【概要】地域の防災組織等から実際の取り組みについてお話しいたします。災害が起こった時の避難所運営についても考えます。



第 1 回講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成 30 年 7 月 11 日（水） 19:00～21:30	場 所	朝倉地域生涯学習センター 2F 会議室 1
講座名	第 1 回 《公開講座》 豪雨から 1 年～朝倉の実態を知ろう～	参加者総数	84 名
<p>講師：九州大学大学院工学研究員附属アジア防災研究センター教授 三谷泰浩さん</p> <p>7 月 6 日（金）に予定していた第 1 回講座が、大雨のため延期になり 11 日（水）に行った。延期のため参加者数を心配したが公開講座でもあり、朝倉市から 50 名、筑前町から 13 名、その他の地域からも参加があり、予想を上回る参加者で関心の高さが窺えた。</p> <p>まずは、なぜ昨年のような災害が起こったのかを防災を専門とされている九州大学大学院の三谷教授から講演していただいた。</p> <p>災害の概要として、昨年 7 月 5 日朝倉市・東峰村を中心に線状降水帯が発生し、年間の 1/3 の量の雨が 6 時間という短時間に集中して降ったことにより、同時多発的に斜面崩壊が発生し、それに伴い土石流が発生、平野部に大量の土砂や流木が流れてきた。また、歴史的に見た朝倉市の地形や地質などの詳細説明があり、風水害・土砂災害としては国内でも最大規模の災害が小さな地域で起きてしまったと話された。今後の防災への取組については、まずは自分の身を守るための知識を身に付けること、一人が難しければ家族や地域と共同で取り組む。復興計画は住民と行政が協働で作成し、復旧・復興に関しては住民も自ら考え、行政はそれに耳を傾けなければならないと話された。</p> <p>参加者の感想は</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 普段平穏に生活しているせいもあり、日本が災害大国であるという事実に気付かずに生きてきたと感じた。地形や筑後川の経緯なども面白く自分が住むところの安全性も考えていかなければならないと感じた。 ・ 自分たちの住んでいる地域の地形やその特徴、弱点等を知ることができた。復興がより良いものになる様に行政と住民が一体となって取り組んでいけたらと思う。 ・ ハザードマップの配布があっても今までよく見ていなかった。一部だけを見るのでは不十分であることを知った。防災という事でなく減災を考えていきたい。このような学習の機会は大変だと思う。 <p>講演によりまずは朝倉の災害の状況を知ること、防災を自分の事として捉えてもらうことができ、次のワークショップへ繋がる講座となった。</p> <p>公開講座後、塾生のみ残り、あさくら元気塾の開講式を行った。</p>			

三谷教授による講演



あさくら元気塾開講式



第2回講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成30年8月19日（日） 13：30～16：00	場 所	朝倉地域生涯学習センター 2F 会議室1
講座名	第2回 被災体験から学ぶ 今備えるべき〇〇！	参加者総数	53名

7月29日に予定していた第2回講座は、台風接近のため8月19日に延期しての実施となった。第1回の講座内容をふまえ、今回は5名の被災体験者の方から、被災当時の自分、家族、地域の状況や、その後の経過などについてお話をいただいた。

*岸本 晃さん（東峰）（村営ケーブルテレビ「東峰テレビ」総合プロデューサー）
メディアの視点からの報告。被災直後から3ヶ月近く、各集落を見舞って歩き、7年近い住民の方とのつながりがあったからこそ見えてくること、感じられることなどを、丁寧にフェイスブックなどで発信し続ける。きびしい被災の中での人々のたくましさや、きずなの強さが、復旧・復興の大きな力となっている。

*小城 和正さん（杷木）（60才で北九州から移住）避難が遅れたが、幸い生き延びることができた。避難が遅れた理由として、増水のこわさ、自分の家の危険度の認識がなかったことが大きかった。集落の人々のつながりが深かったことが、今の力になっている。家族では、お互いの気持（不安や落ち込み）をお互いに受け止め気づかうことが大切だ。

*竹田 正則さん（地域活動指導委員として、避難所運営にあたる。15年前久留米から移住）避難所での様々な問題を、班長会を通して全体で考え、子ども・高齢者・女性を中心に置きながら、自立に向けた避難所運営にあたる。避難者ひとりひとりの顔を見て、一歩ずつの動きを働きかける。公助、共助との連携が大切。行政とのつながりも前進した。

*矢野 晶子さん（高木）（高木コミュニティー職員 元看護師 元リスクマネージャー）
想定外は起きると心得、防災意識を高めてほしい。災害前にできることを具体的に実行する。発災直後から救出されるまでは、絶対に一人で行動せず皆で協力する事が大事。非常時持ち出し袋の中身は、自分にあったものにする事、特に常備薬、おくすり手帳。

*篠崎 正美さん（朝倉）（家族の会社が被災。保育所・高齢者施設経営）
家族のお迎えができない園児は、保育所に宿泊。高齢者施設でも自宅が被災された方は帰宅できず不安になる方もあった。それぞれにできる限りの対応を行う。今後は、災害を受けての課題を朝倉市全体で共有していきたい。

●5名の体験者の話を聞いた後、ワールド・カフェでは、今自分に出来ている事、これからやりたい事、近所力を高めるために出来る事、行政でしてほしい事などが活発に意見交換された。参加者の感想では、体験談を自分の暮らしと重ね、具体的な行動がイメージされていて、防災への意識が深まった意見が多数だった。今回は高校生の参加がありうれしかった。

第3回講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成30年9月2日（日） 13：30～16：00	場 所	朝倉地域生涯学習センター 2F 会議室1
講座名	第3回 《公開講座》 大災害に備える～高齢者・障がい者・子ども・男女共同参画の視点から～	参加者総数	78名

第3回講座は、多様な視点から見た防災ということで、減災と男女共同参画研修推進センター共同代表の浅野幸子さんに講演していただきました。公開講座ということで、塾生以外にも主催者である各市町村の首長やたくさんの方に参加していただきました。

まず、阪神淡路大震災や東日本大震災、熊本地震の実際の話をはじめ、高齢者や障がい者の死亡率の高さや昼夜間での人口構成の違いから、避難行動の中心人物の違い、関連死の多さ等、グラフを用いて具体的な説明がありました。災害による犠牲者を減らすために、特に長期間避難所で生活する際の避難所運営が重要になってくるということがわかりました。

次に、要配慮者等が置かれがちな困難な状況の説明として、大地震後、『寝たきりの家族がいる場合、避難所に行くのか、自宅に残るのか』、また、『泣いてしまう乳幼児がいて避難している場合、避難所に残るのか、自宅に戻るのか』という質問があり、自宅が危険な場所とわかっていても避難所に居づらいということ、自身のこととしてイメージすることができました。

そして、避難所生活での性別や立場による困難の違いへの気づきのワークショップとして、東日本大震災の際に避難所でよく見られる困難を描いたイラストを見ながら、隣の人と「何に追い込まれているのか？」「なぜ追い込まれているのか？」を話し合いました。また、ミニワークとして、3つの設問を隣の人と話し合いました。1つ目は、高齢者の寝床の環境改善について、避難所である小学校付近にあるもので、床から寝床を高くする方法を考えました。2つ目は、避難所での食事（行政からのお弁当、ボランティアによる炊き出し）で食物アレルギーを持っている人が安心して食べられる方法を考えました。3つ目は、300人の住民が避難している避難所に必要なトイレの最低限の数はいくつか等のトイレ環境について考えました。人はそれぞれ得意な気づきの分野があり、避難所運営に多様な人が関わることによって、声をあげやすく、それぞれの困難を解消できる環境をつくられるとわかりました。

講演会終了後、塾生は第4回講座の準備として、次回講師の里川径一さんと実行委員のもとで、6グループに分かれ、それぞれ身近なものの防災グッズ作りをしました。第4回講座では、それぞれ作った防災グッズの作り方を教え合うことも予定しています。それまでは、それぞれが何を作ったのかは、秘密です。

第4回講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成30年11月11日（日） 10：00～14：00	場 所	朝倉市杷木星丸 旧松末小学校
講座名	第4回 3日間生き抜くためのサバイバル技術	参加者総数	65名

被災して3日間は救助隊や救援物資が届かないことを想定し、アウトドアの様々な技術や知識は災害時にも応用できることから、今回の講座は3日間生き抜くサバイバル技術を身につけることができる体験プログラムを実施した。また、会場を旧松末小学校とし、受講生に校内施設を案内して被災時の様子を説明した。大人だけではなく子どもも参加しており、「便利で快適」な暮らしの中にいる子どもにも、災害時の過酷な環境で生き抜く力が多少なりとも身についたのではないかと考えている。

プログラムでは①テント立て②サバイバル飯作り③サバイバルグッズの作成・紹介を行い、楽しみながらも災害の備えをしっかりと身につけることができるような内容となった。

プログラムの詳細は以下のとおり。

- ①テント立て・・・長期に渡る避難所生活や屋外で避難する場合に備え、テントの立て方を説明し、実際に各班毎にテント立ての体験をした。未経験者が多かったが簡単にテントを立てることができ、子ども連れの人やプライバシーが気になる人でも、周りを気にせずに避難生活を送ることができる。
- ②サバイバル飯作り・・・空き缶を利用して鍋とコンロを作成し、燃料は牛乳紙パックを使って炊飯を行った。また、材料を入れたポリ袋を湯煎し、カレー、卵焼き、ケーキを作り好評だった。ポリ袋に入れたものを湯煎で調理することで、飲めない水でも調理が可能。食器は新聞紙で作ったお皿にビニールをかけたものを使用することで、洗いものが減り水の節約ができる。
- ③サバイバルグッズ作成・・・各班で新聞紙で食器やスリッパ、ポリ袋で作った防寒着やポンチョ、簡易おむつを作成し作り方や用途などを披露しあった。

受講者の感想は以下のとおり。

- ・被災者の生の声を聴くことができ、当時の状況が分かった。
- ・色々なものが防災グッズに役立つと分かった。便利な世の中を見直すきっかけとなった。
- ・堅苦しい防災研修がキャンプを通して楽しく学ぶことができた。
- ・松末小学校で開催されたことで被災現場を目の当たりにし、災害の恐ろしさを学んだ。
- ・空き缶でご飯が炊けるとは驚きだった。
- ・体験を通して楽しく防災を考えることは必要だと思った。
- ・新聞紙やビニール袋が防災グッズに変身するとは驚きだった。

第5回講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成 30 年 12 月 2 日（日） 13：30 ～ 16：00	場 所	朝倉地域生涯学習センター 2F 会議室 1
講座名	第 5 回 地域防災の今！！ 防災組織の取り組みとワークショップ	参加者総数	45 名

第5回講座は、「自主防災組織と協働について語り合おう」ということで、3名の方にお話しいただきました。

まず蜷城地区コミュニティ事務局長 羽野さんより、自分が消防隊員、救急隊員として実際現場で実行してきたことを生かし「蜷城地区自主防災会」を立上げから活動内容、今後の課題等の話がありました。コミュニティ組織の編成では女性役員を40%にし、女性防災リーダーの必要性と、自助を中心にした内容でした。

次に、東峰村役場 総務課 岩下さんより災害に備えて九州大学とコラボした地域防災マップ作成の話がありました。行政に任せるのではなく連携することで、個人や地域では難しい問題を解決していく公助が必要だということでした。

最後に、筑前町防災専門官 石川さんより、行政と地域で日頃の防災体制を確立するために実際に避難訓練をし、その時の結果と今後の課題を話していただきました。隣り近所で力を合わせて要支援者や要配慮者を把握し、一緒に災害から身を守るという共助の必要性を学びました。

第2部では、ファシリテーターに高崎 恵さんを迎え、グループに分かれて新たな防災・減災に向けての課題と対策を話し合いました。

高崎さんは、今回の学びを一人一人がどう生かすか、私たちが地域の中で知恵と力をどう発信していくか、大事なことは、気づき、知識にする、行動する、それを全員で共有する。その繰り返しだと思いました。人とは違った意見を出しづらい地域に住んでいるかもしれないが、自分の意見をためらうのではなく、意見を出してこそ新しい答えが見つかるということ学びました。違いを恐れずに発言することは、より良い地域づくりに繋がると強く思いました。

各グループでは、積極的で活発な「討論」でなく「対話」が生まれていました。

アンケートの中の「これを機会に地域活動を何かしようと思いませんか」との質問には「やりたい、やるべきだ」と思う人が過半数でした。「また誰かに伝えなければ、もったいない、どうにかして地域に伝えていく」との意見がでており、今後自主的で具体的な活動に繋がっていくのではと、大変うれしく思いました。

プラス1 講座事業報告書

実行委員会名	「手をつなごう朝倉防災プロジェクト」あさくら元気塾実行委員会		
タイトル	実践！命を守る防災力講座「被災した地域だからこそ伝えよう！」		
日 時	平成 31 年 1 月 20 日 13:30～15:30	場 所	朝倉地域生涯学習センター 2F 会議室 1
講座名	あさくら元気塾プラス1 講座 「避難所運営ゲーム ^{ハグ} HUG」	参加者総数	25 名

計画通り 5 回の講座を終えた翌月、更にプラス1として追加講座を行いました。「避難所運営ゲーム「HUG」を使った避難所運営の疑似体験です。講師には「男女共同参画ネットワーク春日」の杉浦しのぶさんと魚屋けい子さんのお二人に来ていただきました。はじめに丁寧な進め方の説明があり、まず条件を設定するので、それに従って避難所を運営してくださいということでした。

避難所に小学校が設定されました。条件は全てがなにも使えない「ないない尽くし」の状態、停電し水道はおろかトイレも使えない、外は雨が降っているというものでした。

運営の疑似体験は、5～6人ずつの5グループに分かれて行いました。一枚の模造紙を小学校の体育館に見立て、まず受付や通路の位置を決めていきました。続いてカードに書かれている状況（耳が聞こえない方が来ました。けがをした人がいます。ペットと一緒にいる人がいます 等）を把握して即座にどうするかを決めなければなりません。また、別にA3ほどのコピー用紙には学校の敷地全体が書かれていて、仮設トイレや駐車場の位置を決めて書き込んでいきます。

押し寄せる難問カードに参加者は四苦八苦ししました。ゲームであってもどうしていいかわからない状態でした。発災直後の困乱の中にあっては、この比ではない事が容易に想像されました。災害の状況や避難所となる建物の構造や運営する人も違ってきます。少なくとも一度疑似体験しておけば、被災時の対応は随分違ってくるはずです。

ゲーム終了後、各グループから“こんな方法もあります”と様々な意見が出されて、いろんなケースを学び合うことができました。「HUG」に正解はありません。ただ共通することは、『避難してきた方たちが、できるだけ気持ちよく生活できる場をつくっていくことが重要なのだ』ということを知りました。



H(避難所) U (運営) G (ゲーム)

ある避難所の運営を任せられたという想定のもとで、次々にやってくる避難者の状況を考慮しながら迅速に、適切に対応するすべを学ぶゲームです。カードはカルタほどの大きさに、避難者の地域や年齢、自宅の被害状況や健康状態が書かれています。

- 例えば
- ・高齢者がいる家族が避難してきた。
 - ・生後数か月の乳幼児がいる家族が避難してきた。
 - ・仮設トイレがきた。
 - ・ペットを連れてきた。
 - ・発熱している。
- など

正解はありません、みんなで次々にやってくる避難者を状況に応じて配置していきます。

高齢者ほどのスペースがいいかな？

トイレに近いところがいいんじゃない？

発熱している人は別室がいいかな・・・



赤ちゃん連れは夜泣きすると周りに気を遣うよね・・・

ペット連れの家族はどうする？

仮設トイレが来たけどどこに置く？

第1回講座 豪雨から1年

～朝倉の実態を知ろう～

講師 三谷泰浩さん

(九州大学大学院工学研究院付属アジア防災研究センター教授)



開講式



防災・減災・復興について話す三谷さん

第2回講座 被災体験から学ぶ 今備えるべき〇〇!



ファシリテーター 杉本 めぐみさん
(九州大学 持続可能な社会のための決断科学センター助教)

篠崎 正美さん (朝倉)

家族の会社が被災・保育・高齢者施設経営



竹田 正則さん
(地域活動指導委員として避難所運営にあたる)



矢野 晶子さん
(高木コミュニティー職員 看護師 元リスクマネージャー)



小城 和正さん (杷木)
60歳で北九州から移住



岸本 昇さん (東峰)
村営ケーブルテレビ「東峰テレビ」総合プロデューサー

第3回講座 大災害に備える

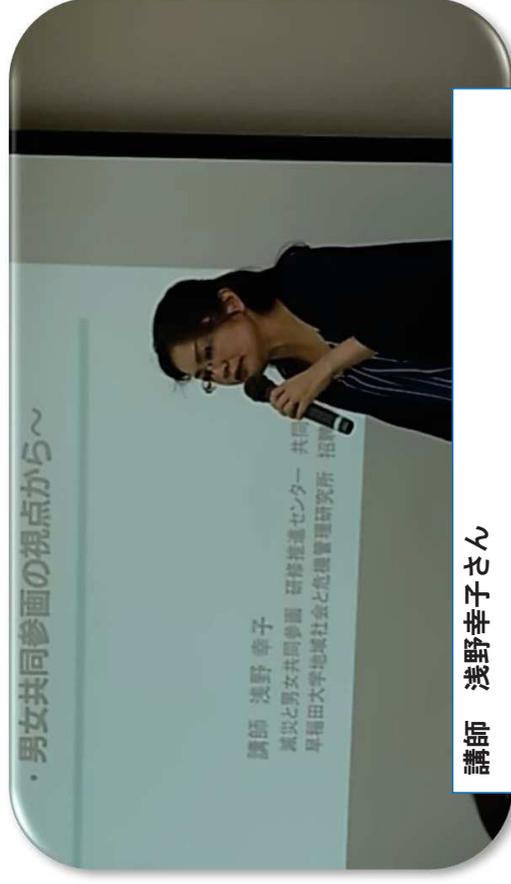
～高齢者・障がい者・子ども・男女共同参画の視点から～



林朝倉市長・田頭筑前町長・澁谷東峰村長



声をあげることが大切と話す
浅野さん



講師 浅野幸子さん

(減災と男女共同参画研修推進センター共同代
表)



第4回講座 3日間生き抜くためのサバイバル技術

会場 旧松末小学校



校舎内外の当時の状況を説明していただきました



ポリ袋で湯煎してカレーや卵焼き、ケーキ作り



空き缶の上が炊飯
下がコンロ



レジ袋とタオルでおむつ作成



新聞紙やポリ袋が防災グッズに変身するとは驚き！

講師 里川径二さん
(あさくら観光協会事務局長)

第5回講座 地域防災の今！！

防災組織の取り組みとワークショップ



蜷城地区コミュニティ事務局長
羽野 勉さん



グループごとに、新たな防災・減災に向けての課題と対策を話し合いました



ファシリテーター高崎 恵さん
(株)オフイスピュア所属
男女共同参画政策アドバイザー
ワークショップデザイナー



筑前町防災専門官
石川 秀俊さん



東峰村役場総務課
岩下 玲礼さん



修了書の交付
代表 大学生の池田 夏美さん